

さくらんぼ



自ら動き、感じ、楽しむ

～笑顔あふれる幼稚園～

NO. 4 令和3年10月1日発行
山口大学教育学部附属幼稚園
URL:<http://www.vma-ka@vamauchi-u.ac.jp>

先日の運動会(運動遊び参観)では、たくさんのご協力をいただきありがとうございました。保護者の皆様の応援が励みとなり、いつも以上に張り切る姿や最後まで頑張れたことが自信となっている姿も見られました。運動会までの子どもたちの遊びや生活の様子、本番での姿などをそれぞれの学年ごとに紹介します。



毎日が運動会みたいで楽しいな!(花組)

日頃からプリンセスやウルトラマンなどの自分の好きなキャラクターになりきって遊ぶことが大好きな花組さん。9月になると園庭にいるバッタを見ながら同じように跳んだり、虫かごの中にあるクワガタの真似をしながら戦いごっこに参加したりと虫になりきって遊ぶことも楽しんでいました。いろいろな虫になりきって遊べるように、バッタやカブトムシ、クワガタやチョウなどの形に切った画用紙を準備すると、早速身に着けて遊びだす子どもたち。そこで、飛んだり跳ねたりできるようにジャンプマットを並べたり巧技台からジャンプできる場をつくったりしました。サーキットの場でバッタになった子どもたちがとピョンピョン飛び跳ねたり、チョウになって手をひらひらと動かしながら「お花はどこかしら?」とテラスを回ったりして楽しんでいました。

保育室の前で慣れ親しんだ頃、「今日はもっと広いところでやってみようか!」とサーキットを大庭まで運んでみると、「えー!こんなところでやるの!すごい!」と喜ぶ子どももいれば、「私はやらない。」とすぐにはやる気持ちにならない子どももいました。3歳児にとってはちょっとしたことでも環境の違いを敏感に感じ取るようです。何回か大庭に行ってみたり、友達の姿を見たりしているうちに、「今日はやってみようかな。」と挑戦する子どもや「一緒にやろう!」と友達に誘われてやる気になる子どももいました。かけっこも同様に、「今日は走らない」「見てるだけ」という子どももいましたが、「先生、明日はお母さんが見てくれるから走るよ。」とおうちの人に見てもらえることを楽しみにしていました。

帰りの会で『むしたちのうんどうかい』という絵本を読み、「みんなもかけっこしたりジャンプしたりして、この(絵本に出てくる)運動会と一緒にだね。」と言うと、「先生、今日は運動会したね。楽しかったね。」とHくん。子どもたちはすでに運動会を終えた気持ちのようでした。あくる日も「今日も運動会楽しかったね。」と。子どもたちにとっては毎日大庭に行くことが運動会だったようです。

しかし、やっぱりお母さんやお父さんに見てもらえる運動会は特別でした。普段なかなか気持ちがのらない子どもたちも、嬉しそうな表情でベン

チに座り、全員がかけっこやサーキットに参加することができました!心の中では緊張や不安もあったと思いますが、友達や保育者と一緒に最後まで頑張れたことがとてもすごいことだと思います。きっとおうちの人に見てもらえたことが大きな自信につながっているでしょうね。週明けの子どもたちは、何回もサーキットの場にやってきて、くるっとひねったりポーズをとったりと工夫しながらジャンプして遊ぶ姿も見られましたよ。例年とは異なる形でしたが、3歳児にとっては慣れた園庭で安心して取り組むことができたと思います。たくさんのご協力ありがとうございました。

(高橋)

ドキドキ・ワクワク運動会♪(風組)

子どもたちがドキドキ・ワクワクしていた運動会が無事終わりました。コロナ禍の運動会とはいえ、子どもたちが遊びの中で楽しんだことが運動会につながっていくように思い取り組んでできました。

2学期が始まると早速、星組さんの姿を見て運動遊びに興味をもつ風組さん。星組さんが「あの木がゴールね。位置について、ヨーイドン!」と言いながらかけっこを楽しんでいるのを見て、すぐ横で一緒に「位置について、ヨーイドン!」と走る風組さん。競うというよりも、友達と掛け声に合わせて走るのを楽しんでいたり、ゴールすることが嬉しかったりする様子でした。また、星組さんが遊戯室でウレタン平均台や鉄棒、跳び箱、キューブからジャンプをする姿を見て、風組の女の子も男の子も何度も遊戯室に行き遊んでいました。Aくんは、最初2段のキューブからジャンプするのを怖がっていましたが、遊んでいるうちにコツをつかんだのか、今では「先生、みててね!」と目を輝かせて、自信をもってジャンプします。

Bくんは、大型積み木を繋げて一本道や坂道をつくり、はりきって保育者のところに来て「先生!アスレチック場があります。簡単コースもあります。」と招待してくれました。Cちゃん、Dちゃんも「楽しそう!やりたい!」と言って、一緒に行きました。ゆっくりコースを進みゴールすると「たのし〜い!あと100回したいね!」とCちゃんDちゃん。Eくんは嬉しくて満面の笑顔で「何回もしてもいいよ!僕が、まだまだ道をつくるね!」とアスレチック場を広げて行きました。

このように、風組さんも星組さんに刺激をもらい、遊びを通じて運動遊びをしてきました。運動会1週間前、初めて小学校の運動場に行った日は、運動場が見えると、「わあ~~~~!」と目を輝かせて、端から端まで走って解放的な気持ちになっていました。また次の日には、運動場に着くと“海の冒険コース”ができて、「たのしそ〜う!」とはりきって冒険しました。楽しい運動会になるよう、子どもたちの気持ちを大切にしながら運動会の日を迎えました。

当日は、おうちの人に見てもらえる嬉しさと、「見られる恥ずかしい!」と言って少しドキドキした気持ちをもちながら、体操服に着替えていました。競技では一人一人が、「見て!こんなこともできるよ!」と自信をもって取り組んでいる姿に成長を感じました。また、踊ったり走ったりすることをクラスみんなと楽しんでいる姿が、とてもすてきなと思いました。保護者の皆様の温かい見守りと応援の拍手のおかげです。たくさんのご協力ありがとうございました。

運動会を通じて、自分が頑張ったことを見てもらって自信がついたり、ドキドキしながらも、たくさんの人に見てもらったりといった経験をした風組さん。運動会は終わりましたが、身体を使って遊ぶ楽しさや友達と一緒に遊ぶ楽しさを感じていけるように引き続き保育してまいります。



(尾川)

友達の応援と頑張る姿に励まされて(星組)



9月に入ってすぐに、大庭で一周ずつ走ってバトンを渡すリレーをみんなでやってみる機会をつくりました。リレーをしてみると、速く走ろうと思わず線の中を走る子どもや、勢いがつきすぎて線から離れて大きく逸れてしまう子どももいました。すると、応援している子どもたちが「線の中に入っているよ。」「もっと線の近くを走った方が速い。」と友達に伝えたり、腕を振るジェスチャーをしながら「もっと腕を振ったほうがいい。」などと友達に走り方をアドバイスしたりする子どもも出てきました。そこで、保育室に帰ってから、もっと速く走れるようになるためにはどうしたらいいのか、みんなで話し合うことにしました。すると、「足を上げて走る。」「(小股でなく)大きく足を広げて、前へ前へ進む。」「線の近くを走る。」「腕をたくさん振る。」「手はグーにしたほうがいい。」などと子どもたちからいろいろな意見が出てきました。そして、次の日には、遊びの中でリレーをする子どもも出てきて、自分達でチームを決めては何度も繰り返し走ることを楽しんでいました。後日、小学校の運動場を借りて赤・青・黄色の3つのチームに分かれてリレーをすると、負けて悔しがらる姿やもっと速く走る方法を考えてやってみようとする姿も見られ、「勝ちたい!」という気持ちが高まったようです。幼稚園に帰って再び、速く走れるようにするためのコツを話し合うと、以前よりも多くの意見が出てきて、友達の意見に刺激を受けて、さらにやる気も出てきたようでした。

遊戯室では、マットや鉄棒、跳び箱に自分で好きな技や高さを選択しながら、楽しんで取り組めるような場をつくっていました。すると、何度も繰り返し挑戦し、できるようになったことを喜んでいる姿が多く見られるようになってきました。鉄棒ができるか不安そうなAちゃんは、前回りをしたときに、鉄棒から手が離れて落ちてしまいました。鉄棒に対する恐怖心が強くなったのでは?と心配していましたが、次の日のAちゃんは「鉄棒を頑張る。」と言って何度も何度も鉄棒に上がって、前回りに挑戦しました。その姿を見ていた、BちゃんとCちゃんが駆け寄ってきて、「こうやって鉄棒をもつよ。」「(鉄棒に上がるときには、)お腹のこころへんをつけると痛くないよ。」「頭を下げると回るよ。」などとAちゃんに一生懸命教えていました。友達に励まされながら少しずつ頭を下げられるようになってきたAちゃん。最後には自分で回ることができて、「できた〜!」と満面の笑みでした。

運動会の終わりの言葉で、PTA会長さんからごほうびがあると聞いた子どもたちは、「メダルがもらえる?」「何色かな?」「(リレーが)1位のチームは金色じゃない?」と楽しそうに話していました。Dくんが「みんな頑張ったから、みんなが金メダルだよ。」と言うと、周りにいた子どもたちも納得しているようでした。これまで頑張ってきたことや、本番も最後までみんなで頑張れたことを認められることは素敵だなと思いました。うまくいかないこともくじけそうになることもありましたが、友達の励ましや応援があったからこそ、あきらめずに最後まで一緒に頑張る気持ちになれたのだと思います。また、お家の人に見てもらうことをとても楽しみにしていた子どもたち。本番は緊張した様子やいつも以上に張り切っている様子が見られましたが、たくさんの人に見守られる中、最後までやり切ったことで満足そうな表情をしていました。そして、さらに高い跳び箱や鉄棒の逆上がりができるようになりたいと、さらなる向上心をもって挑戦しようと意欲を示している子どももいます。もっとできるようになりたい、頑張りたいという気持ちを大切に、継続して挑戦できる場をつくっていきたいです。



(松村佳)